

さまざまなシステムとの連携で、広がる指静脈認証の利用範囲

「静紋 J300」活用を広げるのが認証管理システム「AUthentiGate」です。ユーザー情報の一元管理が可能で、いつ、誰が、どのアカウントでログオンしたかを把握でき、認証情報の登録、変更、ログ監視などの運用負荷軽減につながります。

また「AUthentiGate」では、他システムとの連携用のAPIを提供しています。さまざまな既存業務システムと連携することができ、決済署名などの重要な本人確認に指静脈を利用することで、より強固な認証が可能です。Windowsのログオン連携（Windows 10にも対応）や仮想デスクトップ環境、Webアプリケーションなどの認証も可能で、PCのログオン管理から、システム個別のログイン管理など、柔軟な導入が可能となっています。

また、認証情報は暗号化した状態で通信やサーバー管理が行われるため、盗聴などによる認証情報の漏洩も防ぐことができます。



すでに多数の企業・団体で導入されている「静紋 J300」

その高精度かつ高速の認証と、幅広い対応力から指静脈認証システムはたくさんのお客さまに採用されています。富士経済の調査によれば、日立グループの指静脈認証は生体認証市場のベンダーシェアの31%を占め、第1位となっています。*

導入先での活用もさまざまです。例えば、複数人で利用している共有PC端末のログオン認証や、個人情報を取り扱う業務システムへのログイン強化により、情報漏洩防止を実現しています。

また、内部統制やコンプライアンスの観点から従業員の出勤管理が課題となっている企業では、タイムカード代わりに指静脈認証を使うことで、不正な出勤記録を防ぎ、全従業員の正確な勤務状況の把握と、労務管理コストの削減が可能です。

さらに、複合機と連携させて、指静脈認証後に印刷物が出力されるようにすることで、印刷物の取り忘れによる情報漏洩防止や、不要な印刷物の削減によるコスト削減も可能です。

これまで実際に導入したユーザーからは、「他の生体認証よりも高精度・高速に認証できる」「指静脈認証は、銀行のATMで広く採用されており安心」「ICカードでは1日に数件来ていた忘れ物や紛失などの問い合わせがなくなった」といった声があがっており、満足度も高くなっています。

従来の認証手段の課題を解決し、幅広いシステムに導入できる日立ソリューションズの「静紋 J300」[AUthentiGate]。情報漏洩対策や内部統制強化のための認証を検討している方は、ぜひ日立ソリューションズにご相談ください。

*出典:富士経済「セキュリティ関連市場の将来展望」(2014年~2016年実績 累計台数ベース)



あなたの指が
世界で一つの鍵になる。

指静脈認証システム「静紋」は指静脈を利用した生体認証装置です。偽造や改ざんが極めて困難なため、高い認証精度と高度なセキュリティを併せ持つ認証システムを実現できます。

<http://www.hitachi-solutions.co.jp/johmon/sp/>

※静紋、AUthentiGateは株式会社日立ソリューションズの登録商標です。※その他、本カタログ中の会社名、商品名は各社の商標、または登録商標です。※本文中および図中では、TMマーク、®マークは表記しておりません。※製品の仕様は、改良のため、予告なく変更する場合があります。※本製品を輸出される場合には、外国為替及び外国貿易法ならびに米国の輸出管理関連法規などの規制をご確認の上、必要な手続きをお取りください。なお、ご不明な場合は、当社担当営業にお問い合わせください。※本掲載内容は、Web掲載時のものです。※製品バージョン、前提条件などの詳細はお問い合わせください。

株式会社 日立ソリューションズ

www.hitachi-solutions.co.jp



本カタログ掲載商品・サービスの詳細情報

www.hitachi-solutions.co.jp/column/shion/vol1/

C18K-01-01 2018.06

IT探偵 しおんが解決! 企業潜入調査物語

指の静脈で大切な情報を守る

プロローグ

都内某所に、ITを駆使して企業の悩みを解決するという、特別な探偵事務所がある。そこで働くエリートIT探偵の「伊野部しおん」は、企業が悩むセキュリティや業務効率化の課題を次々と調査・解決していく。

いのべ 伊野部 しおん

IT探偵事務所に勤めるエリート探偵。3年前までは某企業のスーパーエンジニアだったらしい。依頼先の関係者に変装をして、ITの課題を探し出して解決していく変装調査型の仕事を得意とする。



登場人物

ぎぞう なしお 儀蔵 名塩

〇〇株式会社社長。社内システムに不正アクセスが確認されたが、原因調査が進まず困り果てIT探偵事務所へ依頼をすることに。



そりゅう よしお 曾柳 好男

IT探偵事務所所長兼取締役を勤める社長。さまざまな企業に監査などの内部調査を依頼され、しおんを送り込んで企業課題を解決させている。



しおんが解決!
指の静脈で大切な情報を守る



IT探偵しおんが解決!

改正個人情報保護法が2017年5月に全面施行され、実質すべての事業者が個人情報保護法の対象になり、情報漏洩対策強化は、企業・団体における大きな課題になっています。また、コーポレート・ガバナンスやコンプライアンス対策に伴う内部統制強化からも、ITシステムにおける本人確認手段の重要性は高まっています。

本人確認手段として注目されているのが、生体認証です。人の身体の特徴を認証に使うことで、本人を認証して、なりすましを防ぐことができます。

日立ソリューションズの「静紋」は、指の内部にある静脈のパターンを認証に使う、生体認証です。他の生体認証と比較して数多くのメリットがあり、さまざまな場で活用されています。

ますます高まる生体認証のニーズ

大手企業からの個人情報漏洩事件はあとを絶ちません。また、マイナンバーの導入などに伴い、個人情報保護法が改正され、実質すべての事業者が、個人情報保護法の対象となりました。もし情報漏洩を起こしてしまうと、法律による刑事罰を受けるとともに、社会的な信用を失うことになります。これは事業の存続にも関わる大きなリスクです。

特に、電子カルテなどの個人情報を取り扱う医療情報システムでは、情報漏洩対策に効果的な本人確認手段として、二要素認証、つまりID+パスワードに加えて、もう一つ別の手段を組み合わせさせた認証システムを導入することを推奨しています。* この二要素認証の認証手段として注目されているのが生体認証です。

生体認証は人の身体の一部の特徴を使って認証するシステムで、指紋や目の網膜、虹彩、指静脈によるものが知られています。これらの身体的特徴は人によって大きく異なるため、偽造や盗難などによる「なりすまし」の危険性が低いことや、IDカードなどのように紛失するリスクが低いことが大きなメリットです。

*出典:厚生労働省「医療情報システムの安全管理に関するガイドライン」



さまざまな生体認証

生体認証でよく知られているのは指紋認証でしょう。かなり前から技術としては使われており、最近ではスマートフォンの認証手段としても普及しています。このように技術的なハードルも低く数多く使われている指紋認証ですが、指の表面の模様を使うため、手荒れなどによって指紋の形状が変わってしまうと、認証率が低くなってしまいう場合もあります。最近では、カメラの高解像度化が進んでおり、写真に写りこんだ指紋を複製し、指紋認証システムを突破することができるとの報道もありました。また、犯罪捜査を想起させるため指紋を取ることや、認証のためにセンサーに直接指を接触することに抵抗を感じる人もいたり、指紋が偽造されたりする懸念がある場合もあります。

目の虹彩や網膜を使って認証するシステムも比較的古くから使われていますが、大掛かりな機器が必要で導入コストが比較的高額になってしまうことや、認証に時間がかかるという課題があります。

これに対して、指静脈を使った認証の場合、外部からは見えない指内部にある静脈を利用して認証するため、偽造・改ざんが困難です。また、シンプルな認証装置のため比較的低コストで導入可能です。さらに、指1本かざすだけの簡単な操作でスピーディーに認証ができるというメリットもあります。



高精度で高速な「指静脈認証」

そこで、注目を浴びているのが指内部の「静脈のパターン」を使って認証を行う、日立ソリューションズの指静脈認証システム「静紋 J300」です。「静紋 J300」は、あらかじめ登録しておいた指静脈のパターンを使って、高精度かつ高速に認証を行うことができます。

認証精度*1	指静脈認証「静紋 J300」
FAR (他人受入率) *2	0.0001%
FRR (本人拒否率) *3	0.01%
FTER (登録未対応率) *4	0.03%未満

「静紋 J300」の指静脈認証は、人体に安全な近赤外線を指の上側から当てて、指先の血流パターンを読み取ります。外部からは見えない指内部の生体情報を利用して認証するためセキュリティが高く、指先表面の状態の影響を受けにくくなっています。

手荒れなどがあっても誤認識することはほとんどないため、医療機関をはじめ、数多くの企業・団体に導入されています。



*1 1:1 認証での測定値。バイオメトリクスの精度評価に関する国際規格ISO/IEC 19795-1に基づいた測定方法で算出した精度。
*2 FAR (False Acceptance Rate: 他人受入率): 誤って他人を受け入れてしまう確率。
*3 FRR (False Rejection Rate: 本人拒否率): 誤って本人を拒否してしまう確率。
*4 FTER (Failure To Enroll Rate: 登録未対応率): 生体情報を登録できない人が発生する確率。